

平成27年11月10日

財務大臣 麻生太郎 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会 代表 田上辰也
ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 西 聖一
代表連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 中島康
電話 090-2505-3880 FAX 096-354-2966

国営立野ダムに予算をつけないことを求める要請書

国土交通省は来年度政府予算の概算要求として、国営立野ダムの建設関連事業費42億円を盛り込みました。しかし、国土交通省が6月25日に情報開示した白川の「現況河道流下能力算定表」によると、河川改修で白川の流下能力は大幅に向上し、計画高水位（堤防上端から1.2m下の水位）で検証しても河川整備計画の目標流量（毎秒2300トン）をほぼクリアしており、立野ダムを建設する必要がないことは明らかです。

同資料によると、平成24年7月12日の九州北部豪雨は、最大流量毎秒2300トンであったため、当時、堤防天端（上端）での流下能力が毎秒2300トン未満の多くの地点で、堤防からあふれるか、危うくあふれそうになりました。

ところが、改修後（平成27年3月測量時点）の同資料によると、改修が行われた地点では大幅に流下能力が向上しています。藤崎宮地点（河口から14km地点）を例に挙げると、毎秒1748トンだった堤防天端での流下能力が、毎秒3630トンと、2倍以上に向上しています。これは、河川整備基本方針で定められた、白川での150年に一度の洪水（毎秒3400トン）もクリアできる流量です。改修が行われた他の地点でも、同様に大幅に流下能力が向上しています。

同資料によると、最も流下能力の低い地点（河口から9.6km地点）でも、計画高水位（堤防天端から1.2m下の水位）を約20cm上回るだけであり、堤防天端から約1mの余裕があります。河道にたまった土砂を撤去すれば十分対応可能な数値です。同資料をもとに、熊本県などに提出した「立野ダムの白紙撤回を国に働きかけることを求める要望書～国が公表した白川の現況河道流下能力算定表について」をご参考までに添付します。

平成24年9月11日、国土交通省は熊本県と流域市町村に対し「白川の治水には立野ダム建設が最も有利である」との独自の検証結果を提示しました。これに対し、同年9月22日より白川流域の熊本市、大津町、南阿蘇村で公聴会が開かれました。3日間で30名の流域住民が意見陳述をし、全員が立野ダムに反対や疑問の意見を述べ、「立野ダム案がよい」と発言した住民は一人もいませんでした。30人全員の発言録が、以下の国土交通省ホームページでご覧になれますので、ご確認ください。

●「立野ダム建設事業の検証に係る検討報告書(素案)」に対する関係住民からの意見を聴く場

[http://www.qsr.mlit.go.jp/n-kawa/kensyo/02-tateno/jyumin-iken\(tateno\)/jyumin-iken.html](http://www.qsr.mlit.go.jp/n-kawa/kensyo/02-tateno/jyumin-iken(tateno)/jyumin-iken.html)

にもかかわらず、熊本市議会と熊本県議会は立野ダム建設推進の意見書を可決。10月には熊本県知事が国交省の立野ダム事業検証に対し「異存なし」と回答。12月には国土交通大臣が立野ダムの事業継続を決定してしまいました。民意から考えても、立野ダム建設は不要です。

立野ダムは洪水調節だけを「目的」としたダムですが、洪水時にはダム下部に開いた3つの穴（高さ5m×幅5m）が流木などでふさがり、洪水調節不能になるのは明らかです。熊本市など下流の安全を守るどころか、危険をもたらすダム計画です。

以上の理由で、国営立野ダムは国費の無駄遣いであり、来年度以降、予算をつけないことを強く要請します。

以上